

生団連会報

2016年12月
VOL.18

生活者の視点を大切に、
国民の生活を守ります。



巻頭言

参議院議員
参議院 環太平洋パートナーシップ協定
(TPP)等に関する特別委員会委員長
自由民主党 税制調査会 副会長 兼
小委員長代理
宏池会 座長
林 芳正 様
「当面の重要課題と
租税政策の役割」



会員様 メッセージ

～わたしもひとこと～

公益社団法人
札幌消費者協会 会長
高橋 幸一 様



活動報告

- ・平成28年度 第2回常務理事会・
第3回理事会合同会議
- ・「くらしフェスタ東京2016」出展
- ・すぐにできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト!
「ソナエラボ」WEBサイトが公開!
- ・「もったいないゼロキャラバン」開催
- ・3R漫画「地球にいいコト考えよう!」活用状況
- ・『男の「ちょいカジ」マニュアル』を発行しました
- ・リーフレット
「親子で考えよう、食品の期限表示」完成
- ・第7回 アクティブライフ意見交換会
「買い物」
- ・定例勉強会

事務局からのお知らせ

- ・出向者紹介



当面の重要課題と租税政策の役割

日本の福祉は「中福祉・低負担」と言われており、ここ数十年で福祉のコストは増加傾向にあります。一方、予算の総則では、消費税収は当時の「高齢者3経費」の年金・医療・介護に、現在はさらに子育てを加えた「社会保障4経費」に全て充当することになっており、増える福祉コストにあわせて消費税も増えていくはずでしたが、5%から8%になるまで長い期間を要しました。結果、その分の赤字国債が積みあがっているという状況です。この「中福祉・低負担」から「中福祉・中負担」にしていくことが非常に重要な課題ですが、その中核をなす消費税増税は二度にわたって延期されました。

税は、最終的に国民の皆様にご負担いただくものですので、誰に、どのくらいご負担いただくかということ、さらには選択できるかできないかということを考えていく必要があります。極端に言うと、消費税は消費しなければ発生しませんが、所得税は働く限り発生するため、選択の余地は少ないと思います。税の原則である「公平・中立・簡素」を旨として、それぞれの税の特性を考えていく必要があります。

社会の構成が変わり、所得を稼ぐ現役世代が減少し高齢化が進むと、必ずしも国民の多くに所得があるということではなくなります。一方、社会保障や地方行政等のサービスは全員等しく受けるため、所得だけに頼った税体系では歳入と歳出のアンバランスが出てきます。結果として、社会構造の変化に対応するという意味では消費税というのは非常に優れた税だと思います。

アベノミクスは3本の矢と称してやってきました。3本の矢は3本束ねるから折れないわけで、1本だけでは折れてしまいます。初期の段階では応急処置として金融政策に比重を置きましたが、まさに今こそ金融政策から成長戦略を主役にしていくべき時期にきています。政府はこの3年間KPIという指標を使い、目標の達成度合いを詳細に計ってきました。たくさんの項目を総ざらいし、達成していないものはなぜ達成されていないのかということを全部チェックした上で、今後必要な施策を更に追加的に行っていきます。

消費を拡大する上で税の果たす役割として、まず目指すべきは「中立」だと思います。税がかかる以上、中立性は少なからず損なわれます。ですのなるべく損なう度合いを少なくするというのが税制の課題です。税に消費の拡大を期待するよりも、消費の邪魔をしないというくらいの気持ちでないといけないと思います。

旧知の清水信次会長が、「企業と消費者・生活者をつなぐ団体を」という大きな志を持って設立された生団連のますますのご発展を心からご祈念申し上げるとともに、今後とも国政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○略歴

1961年生まれ。東京大学法学部卒業、三井物産㈱に入社。1994年ハーバード大学ケネディ行政大学院修了。1995年第17回参議院議員選挙(山口県選挙区)で初当選(現在4期目)。1999年大蔵政務次官。2006年内閣府副大臣。2008年防衛大臣。2009年内閣府経済財政政策特命担当大臣。2012年農林水産大臣。2015年農林水産大臣(再任)。



参議院議員
参議院 環太平洋パートナーシップ協定(TPP)等に関する特別委員会 委員長
自由民主党 税制調査会 副会長 兼 小委員長代理
宏池会 座長
林 芳正 様
(はやし よしまさ)

■ 生団連の使命

「国民の生活・生命を守る」

■ 生団連の活動指針

- 一、国民生活の安全・安定の確保と質の向上、関連業界の健全な発展への貢献を通じて、「国民の生活・生命を守る」という使命を追求し続けます。
- 一、世界的な視点から日本の現状を顧みて、立ちはだかる諸課題に対し、御上頼りになることなく「自ら解決に取り組む先駆け」となることを目指します。
- 一、生産・製造・流通サービスの業界と消費者団体が一体となって大いに研究・議論を尽くし切磋琢磨して、政府・行政の政策運営に対する発言力、提案力、そして実現力の確保に努めます。

CONTENTS

■ 生団連の使命・活動指針 P.1

■ 巻頭言 P.2

参議院議員
参議院 環太平洋パートナーシップ協定(TPP)等に関する特別委員会 委員長
自由民主党 税制調査会 副会長 兼 小委員長代理
宏池会 座長
林 芳正 様
「当面の重要課題と租税政策の役割」

■ 会員様メッセージ P.3

- ・ ~わたしもひとこと~
公益社団法人
札幌消費者協会 会長
高橋 幸一 様



■ 活動報告

- ・ 平成28年度 第2回常務理事会・第3回理事会合同会議 P.7
- ・ ~高話~「女性の活躍は日本経済の再生」野田 聖子 様 P.8
- ・ 「くらしフェスタ東京 2016」出展 P.11
- ・ すぐにできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト! 「ソナエラボ」WEBサイトが公開! P.12
- ・ 「もったいないゼロキャラバン」開催 P.13
- ・ 3R漫画「地球にいいコト考えよう!」活用状況 P.15
- ・ 『男の「ちょいカジ」マニュアル』を発行しました P.16
- ・ リーフレット「親子で考えよう、食品の期限表示」完成 P.17
- ・ 第7回 アクティブライフ意見交換会「買い物」 P.17
- ・ 定例勉強会 P.18

■ 事務局からのお知らせ P.18

- ・ 出向者紹介



～わたしもひとこと～

公益社団法人
札幌消費者協会 会長
高橋 幸一 様
(たかはし こういち)

1. 会長に就任して

私は、今年の5月末に札幌消費者協会の理事から会長に就任しました。以前は公務員をしていましたので、この消費者団体に関わった当初は、毎日世の中が違って見えましたね。そこがス

タートでした。

ご存じの通り北海道は面積が大変広く、現在179市町村あります。その中で札幌市はどうしても北海道の中心にならざるを得ないため、私たちも北海道全体を見ながら活動を行っています。例えば、最近では野生のエゾシカが増加し、農業と林業が何十億円と大きい被害を受けた結果、北海道庁にエゾシカ対策課ができました。被害を食い止めながら、人とエゾシカとの適切な関係を築くという目的に対し、当協会でもエゾシカ倶楽部という研究会を設立し具体的に参加しています。こういった問題は農業・林業を含む第一次産業が盛んな北海道ならではの課題で、組織まで作って対策を練るというのはなかなか他の県では

見受けられないのではないかと思います。

当協会は今年の4月に公益社団法人に移行しました。“公の利益のための活動”ということで、それまでは当協会の会員を主体にしていた活動の幅を、大げさに言うと消費者全体、あるいは市民全体というように、活動の幅を広げて啓蒙活動などを行っています。一方、活動資金も必要になることから、企業様に賛助会員になっていただいたり、または色々な活動にご協力いただいているところです。例えば、食品会社の方に具体的な研究活動を講演いただく、あるいは講座の一部を担っていただくといったことや、携帯電話やスマホの扱い方、契約の仕方といったことも、一人でお店に行って聞くというのはなかなか億劫ですので、専門の会社の方に来ていただいて解説をしていただきました。全体的に分かりやすく、非常に人気があります。

2. 活動について

北海道も全国の状況と変わらず、高齢化に伴う問題がいろんなところに出てきています。詐欺まがいの被害を受けたという相談件数が圧倒的に増えており、対応する相談業務はもちろん、被害を未然に防ぐための啓蒙活動にも力を入れています。高齢化の問題はそれだけではありません。例えば買い物難民。札幌も面積が広く、身近に歩いて買い物に行ける店がない地域もあります。当協会の活動でも、スーパーの配達業務の仕組みや利用者の実態調査を行い、問題点の分析

なども行いました。より具体的に考えていかなければいけない状況です。また、自動車を利用する人も非常に多く、高齢化が進むにつれて運転のできない人が増えていきます。公共交通機関だけではなかなか賄いきれず、買い物に限らず、全体的に年寄りが閉じこもりがちになる。そうすると健康や医療の分野にも消費者協会として手を伸ばし、いろんな学習会をやる必要が出てきます。

今日も学習会をやっていますが、時事講座ということでその時その時で様々な問題を取り上げています。中でも、医療関係や、俗に言う「終活」というエンディングロード関係、食品関係は非常に人気があります。食品もいろんな問題がありますよね。日本国内だけではなく、海外から入ってくるものも含めて関心度が高いので、こちらとしても取り上げざるを得ない状況です。やはり高齢社会に伴う健康、食品、交通。高齢化を軸に、関連している分野に問題が増えているように思います。

生団連の活動と同じく、食品ロスの問題にも力を入れており、ごく最近も取り上げたところです。





家庭での食品ロスは大変多く、また自分たちの手で何とかするわけですから、具体的な冷蔵庫の整理の仕方など様々な講座を行っています。食品への興味は圧倒的に高く、食品のロスと活用、双方をきちんと学ぼうという人が多くいらっしゃいます。年間の事業計画の中にも、食品ロスの意見交換会ということで、食品業界の方と消費者協会の担当者による懇談会、そこに当協会の会員も参加できるという形で行っていく予定です。

さきほども買い物難民と言いましたが、身近に歩いて買い物に行く店がない人たちは、一気に買い込もうとします。すると、どうしても冷蔵庫の中で食材が眠ってしまい、食品ロスが生じます。高齢化と食品ロスもある意味では関連しています。

災害関連について、そもそも札幌は災害自体が比較的少ないと言われています。しかしいつ何が起こるかは分からないということで、札幌市の防災センター見学会を実施しようということになり、実際にやってみると意外にたくさんの人が集

まりました。これは、本州で起こった一連の災害を受け、自分たちもきちんと考えようという意識がだんだん高まっているのかなと思います。北海道の住民は、自分の三代前くらいに本州から移住してきた人達です。だからどうしても本州で起きている災害が他人事ではないように感じ、そして札幌はあまりにも災害がなさ過ぎる、逆に有事の際に危ないじゃないかと、皆そういう意識があるのだと思います。それに加え、北海道にも原子力発電所がありますが、これも一つの災害と捉えて、防災意識の中に取り込もうという意見も一部あります。当協会でもどこまで直接活動として取り組むかは別として、防災に対する意識が幅広くなっているように感じます。

当協会としても知識や情報をしっかりと発信することが重要なことだと認識しています。しかし情報というのはなかなかまとまった、きちんと整理された形で入ってきません。いわゆる報道を通じて、断続的に情報が溢れ、その場その場で流れていってしまいます。特に国家規模で起こる



災害や、あるいは全国的に起こりうる問題に対し、私たちに役立つ情報というのは、なかなか個別では入手できません。氾濫する情報を並べただけではなく、“何が大事か”が整理された情報を、生団連のような組織からご教示いただければと思います。消費者に報道などで情報が入った際、いろんな反応が直ちに出てきます。それらに応えられないもどかしさがありますよね。「なぜこういうことに取り組まないのか」「こういった情報をもっと広げてほしい」とか、消費者の方々から要望があるにも関わらず、申し訳ないですと言わざるを得ないことはたくさんあります。理想としては、ある時点できちんと整理した情報を伝え、それに伴う対策も皆様にお示しできるようにしていきたいと思っています。

3. 生団連に期待すること

私は、事業者も含めて消費者だとよく言っています。企業の人も家に帰ればひとりひとり消費者です。生団連の皆様にはそういう意識を持っていただければと思います。事業者、消費者双方の立場を理解できる、そういう方々が集まる団体であれば、やはりより良いものが見えるはずです。そこが一番期待するところです。なにも消費者団体というのは、事業者に対抗して反対ばかりしようという団体ではありません。「消費者は消費者」、「事業者は事業者」というように括ってしまわないで、「家に帰れば全員消費者」だと。そ



こがお互いのたどる道ではないかと、このように思う次第です。

大きな運動になってきた場合、世の中を二分するような問題が出てくると思います。そういった問題というのは非常に取り組みにくい面もあると思いますが、その時には国民消費者のことも忘れずに、少し頭の片隅に入れて取り組んでいただきたいと思います。やはり生団連には、既存の団体とはまた違った観点で見えていただけるのではないかと、我々が参加している意味もそこにあるのだと思いますし、そこに期待して様々な団体が入っているのだと思います。単なる経済団体とはまた少し違いますよ、というところを是非見せてほしいと思います。



平成28年度 第2回常務理事会・第3回理事会合同会議

平成28年12月2日(金) 12:00～ホテルニューオータニ本館1階「鳳凰の間」



本会では、61名の役員(代理出席含む)の皆様にご出席いただきました。

当日は設立から5年を迎えたことに対し、皆様方からのご理解・ご協力に感謝申し上げますとともに、これまでの軌跡についてご説明した上で、「本年度の活動状況について」、「会長人事案について」をご報告いたしました。

「会長人事案について」は、清水会長より来年1月27日開催の臨時総会の決議をもって、小川会長代行へ会長職を引き継ぎたい旨を説明し、役員の皆様より全会一致でご了承いただきました。



自由民主党 衆議院議員

野田 聖子 先生 ～高話～

「女性の活躍は日本経済の再生」



本日は生団連誕生5周年、誠におめでとうございます。清水会長始め、皆様方には混迷する日本の中であって、生団連を通じて私たちに様々な良い知恵を授けて頂いていることを心から御礼申し上げます。

◆ 自分の人生を振り返って

少し私自身のことを申し上げますと、国会議員8期目、在職24年目を迎えようとしている所ですが、初めて国会議員になった時に有権者から「政治の世界は男の世界だ。だから女が政治家になるということは女を捨てることだ。」と言われたことがありました。選挙に勝つためにはそういうものだ信じ、40歳まで独身でしたが、縁あって結婚することができました。その時は母親になりたいという想いがありましたが、40代で子供を産むことができる確率は1%しかありません。しかし、女という

のは切ないもので、母親になるためにその1%の可能性を信じて努力をします。大変厳しい道と分かりながら不妊治療という道に進みましたが、努力をしても報われない壁にぶつかりました。結局、最初のパートナーとは子供に恵まれませんでした。幸いなことに48歳でまた新しいパートナーに恵まれ、結婚させて頂きました。もう子供は産めないと夫と話をしましたが、「自分の子供でなくても、子供中心で子供から学んでいく家族・家庭を作りたい。」という気持ちがあり、児童養護施設や乳児院とコンタクトを取りました。しかし二つの理由で養子縁組を断られました。一つは年齢が高いこと、もう一つが仕事をしていることでした。このような縛りがかかると、不妊治療の結果、次の選択肢として養子縁組を考えている人が大勢いるにもかかわらず、実現が不可能になってしまいます。そこで私はせめてこのようなことがないようにと法案を作り、今国会で成立した所であります。

色々と壁はありましたが、最終的に私は50歳で母になりました。息子はお陰様で、元気にすくすくと育っています。ここに来る直前、来年小学生になる息子の学校が決定し、母親としては息子の人生を繋ぐことができ、共に良き日だと喜び勇んできた所です。

◆ 「働き方」という錆びたはしご

日本には、「働き方」という錆びかけた鉄のはしごがあると思います。社会人になると一斉にはしごを上り始めます。男性は真っすぐ上がっていきませんが、女性は途中で妊娠すると、一旦そのはしごから下ります。その後途中からまた上がらせてくれればいいけれど、また始めから上り直すというのが現在の日本のルールです。これがいわゆる「M字カーブ」ができてしまう要因のひとつです。そして、育児をしていると、今まで上がってきたはしごではなく、隣にある小さくて幅の狭

いパート・アルバイトというはしごを上るようになります。これが多くの日本の女性の姿なのかと思います。私の場合ははしごを上り、大臣や総務会長という、企業で言えば副社長クラスまで上ってから子供を産んだこともあり、運よく上手く復帰できました。しかし今の若い女性社員や国会議員たちがこれからはしごを上っていく中、男性が自分達仕様で作り上げた「働き方」というはしごを作り替えていく必要があります。適齢期に安心して親になれる環境作りこそ、これからの日本を明るくするために大切なことだと私は思います。

◆ 女性活躍は経済政策のひとつ

前提として女性活躍とは女性のための政策ではなく、経済政策としての女性の位置付けについてであるご理解いただく必要があります。国家というのは三つの要素に分かれています。一つは領土、もう一つは統治機構、そして三つ目が国民です。この“国民”が国家の三要素で一番大きいと私は思いますが、現在、国民についての議論が殆どなされていません。日本の人口数はもう右肩下がりになり始めており、このままではこの国は破綻に進むことが明らかですが、一番の問題は国民がそれを実感していないことだと思います。この先100年後にひどいダメージを受け、この国はなくなるかもしれないという危機の第一歩に立っていることを誰一人認識していない。だから抜本的な改革が進められないという忸怩たる思いに足踏みしているのではないかと感じています。人口減少の危機は、現在の限界集落と言われるところを見ればわかるように、例えば1000人いた村が20～30人の高齢者だけになっている。これが日本の行く末です。ところで、日本は成熟国家、先進国と言われていますが、実はまだ何も手を付けていないお宝がたくさんあり、その中で一番明確なのが女性の活躍です。

私が知る限り、本会議場で迷いなく、女性の力が必要だと明言したのは安倍総理が初めてです。ようやく核の部分に手が届いてきたのだから、それを私たちが引っ張り上げていくことが大切です。アベノミクスの第三の矢というのは成長戦略で、その一丁目一番地というのが女性の活躍であり、ここからが安倍総理の腕の見せ所、新生自民党の知恵の出し所であります。

現在、活用しきれていない国内の最大グループは女性です。逆に言うと活かしていないから、活かせばプラスになるという考えにおいては、これほど手間暇とお金のかからない施策はないと思います。しかし、女性活躍推進法もできましたが、ペナルティの無い理念法であり、なかなか前に進みません。そのため、経営者の皆様にはもう一度原点に戻って頂いて、実は女性の活躍というのは一番影響力があり、日本が変わったと世界にアピールできるチャンスと捉えて頂きたいのです。現在、専業主婦世帯と共稼ぎ世帯の数は逆転していますが、未だにサザエさんが一般的な日本の家庭と勘違いしている経営者の方々がたくさんいます。これからの働き方は「DEWKs (Double employment with kids)」が日本の復興を支えていくグループであり、それをどう作っていくか考えていかなくてははいけません。それを進めるうえでの問題は、男女の収入の格差です。勤勉な人たちが報われるような社会構造を作ることができれば、こういった性別による収入格差はすぐに解消されると私は思っています。そして共稼ぎ世帯が富裕になっていけば、子供を育て、人口が安定することで消費活性化につながると思います。もう一つの問題は、女性特有の仕事と言われる保育士と介護士の給料の低さです。実は資格保有者はたくさんいますが、給料の安さと過酷な職場に耐えきれず辞めてしまいます。介護士の不足、女性の社会進出に伴い、

仕事と両親の介護との両立という重圧ですり減っていくのは、男性の問題にもなってくると思います。

◆ 消費活性化につながる少子化対策

少子化対策というのは福祉ではなく、まさに経済政策です。個人消費というのは、どの時代でも国のGDPの6割で、国の公共事業や民間の設備投資よりはるかに国の経済再生に資するものです。日本が右肩下がりなのは、人口つまり消費者の数が右肩下がりであるから個人消費も右肩下がりになるわけで、皆様の作っている商品・サービスが良くないからではありません。量としても勢いとしても、個人消費が国民の中で減ってきているという厳粛な事実を受け止めて、それを戻す努力をすればいいのです。かつ個人消費には世代によって勢いの違いがあります。最も勢いのある世代は0歳から15歳の若年層です。多くの人はこの世代を消費者と呼びませんが、親はお金を出したくなくても活発な消費者がいるから出さざるを得ないという立場です。だから0歳から15歳を抱えた家庭は消費力が旺盛です。例えば0歳から1歳で、身長が平均27cm伸び、洋服も赤ちゃんが一年成長するともう着られませんか。カロリーで見ても、15歳の運動している旺盛な男子の必須カロリーは3,000キロカロリーと言われています。70歳で仕事をしていない男性は2,000キロカロリーを切る位です。一日の摂取カロリーに1,000キロカロリーも差があるわけです。当たり前の事実だけれども、これが少子化対策は経済政策であるということです。そのためにまずやるべきは、これまでの考え方を変え、私たちにとっての当たり前が当たり前でなくなったということを受け止めていただくこと。例えば、女性が一人でも多く働ける職場になると同時に、それぞれに応じた働き方ができ、会社に付加価値を付けてくれるという柔軟な発想や外部から色々なも

のを取り込んでくる社員が評価されるなどです。働き方改革とは、誰の改革かというまさに経営者です。経営者がさっと帰って朝もゆっくりと出社してくるという模範になることで、社員の働き方に対する意識は自ずと変わってくると思います。

◆ 育児と仕事の両方の幸せを

最後に、本日は男性の方が多いですが、私の家庭では夫と役割を入れ替えています。私は昭和の猛烈社員のような日々を過ごし、子供の育児と家事は基本的に夫が仕事を辞めてやってくれています。24時間子供と接している人からすると、子供を育てることの方が仕事より大変だと、男性であれ女性であれ実感していると思います。ただ、育児に携わるというのはその代わりに子供の成長を目の当たりにできるという最高の喜びを得るわけです。外でばかり仕事をしている方は、子供から冷たくあしらわれたご経験もあるのではないのでしょうか。もちろん働くために家族を持つのではなく、家族のために働くわけだから、家族から冷たく扱われる寂しさを味わう中で、男性も辛い環境で働いていたと改めて敬意を表するとともに、男性も女性も子供の愛を求める権利はあるはずだという社会が作られればどんなに楽しいだろうと思っています。

先進国・成熟国家として生き残るのはやはり賢い国だと思います。賢い日本を作っていくために、私はまだまだやれることはあるだろうと期待しています。それに気付いてくれる人を一人でも増やすことが日本経済の再生につながると信じ、女性の活躍についてももう少し経営者の皆様にご理解いただければ幸いです。国家は領土だけがあっても、統治機構だけがあっても回りません。主役は私たち一人一人の国民だということを肝に銘じて、限りある人生だからこそ幸せに生きていけるよう、様々なことを共有できればと思っています。

「くらしフェスタ東京2016」出展

10月7日(金)、8日(土) 新宿駅西口広場イベントコーナー



消費生活全般にわたって、消費者団体・企業・行政などが、多方面から情報発信をする、東京都消費者月間実行委員会主催の「くらしフェスタ東京2016」に出展いたしました。

2日間で約 34,000 人と非常に多くの来場者がいらっしやる中、生団連の活動の紹介や、3R 漫画冊子と「もったいないゼロプロジェクト」のリーフレットを配布し、食品ロスに関するクイズラリーを実施しました。他の出店企業・団体や一般の生活者の方と直接コミュニケーションをとることができ、多くを学ぶ機会となりました。

今後も様々な活動を通じて、積極的に情報発信して参ります。



すぐにできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト! 「ソナエラボ」WEBサイトが公開!

生活者の自助力向上を願いスタートした「すぐにできる、防災のアイデア」を発信するプロジェクト「ソナエラボ」WEBサイトを、防災の意識が高まる9月に合わせ公開しました。「これならできそう!」な防災情報を続々公開中です。現在、9月から11月にかけて下記6企業様にご協力いただいています。

ソナエラボ
9月8日

お水はいざという時の家族を守る大切なもの。はじめられるところからはじめてみて!



今日からはじめたい「スマートストック」って?

◆キリンビバレッジ様

ソナエラボ
9月21日

赤ちゃんがいるご家庭必見! これで赤ちゃんもひと安心。



キューブ状の粉ミルク!?

◆明治様

ソナエラボ
10月6日

できたてのおいしさがぎゅっと詰まったフリーズドライ。家の備蓄にも最適!



フリーズドライってすごい!

◆アサヒグループ食品様

ソナエラボ
10月20日

イザという時には命にかかわること。後回しにはせずしっかりと備えたい!



災害時こそ「〇〇〇〇」が大切!

◆サンスター様

ソナエラボ
11月4日

そのまま食べられる大麦!



「大麦フレーク」は「保存できる野菜」!?

◆はくばく様

ソナエラボ
11月18日

外出時だろうが災害はやってくる…。



カバンにひとつ、「いつもの」バランス栄養食を

◆大塚製薬様

◆記事詳細は WEB へ!

<http://www.seidanren.jp/sonaelabo>

まってるよ!



そな恵さん

アイデア募集中

ソナエラボ

検索

「もったいないゼロキャラバン」開催

開催日時：平成28年10月8日（土）、9日（日） 三軒茶屋とうきゅう
平成28年10月16日（日） 世界食料デーフェスティバル
平成28年10月22日（土）、23日（日） イオンモール多摩平の森

本年度も10月の「世界食料デー月間」に合わせて、一般の生活者の方に食品廃棄の問題について知っていただき、家庭からの廃棄削減を目的としたイベント、「もったいないゼロキャラバン」を都内各所で開催いたしました。5日間合計で10,000人を超える方々にご参加いただき、生活者の方々と直接触れ合いながら食品廃棄の問題を考える、大変有意義な機会になりました。

■企画内容・イベントの様子

◎もったいないゼロパネル展

食品廃棄の現状や消費期限と賞味期限の違い、廃棄しないためのポイントをパネルで紹介。



◎もったいないゼロ上映会

「世界食料デー」月間制作の“食べる”を考える動画、「のこりものがたり」の上映。



◎もったいないゼロクイズラリー

パネルを見ながら学べるクイズラリーの実施。ご参加いただいた方にオリジナルノベルティをプレゼント。



◎もったいないゼロ宣言

「つい捨ててしまいがちな食品」、「食品廃棄をしないために気をつけている、工夫していること」を付箋に記入していただき、ボードに掲示。



◎家庭で捨てられやすい食べ物 (イベント参加者の回答による)

1位	野菜	193票
2位	お菓子(クッキー、スナック、せんべいなど)	36票
3位	ごはん(お米)	26票
3位	果物(バナナ、ぶどう、リンゴなど)	26票
5位	お肉(鶏肉、豚肉など)	23票
5位	調味料(醤油・味噌・酢・マヨネーズなど)	23票
7位	パン	21票
7位	缶詰	21票
9位	お魚(刺身・しらすなど)	20票
10位	弁当・惣菜	18票
11位	納豆	13票
11位	豆腐	13票
13位	牛乳	11票
13位	卵	11票
15位	ヨーグルト	10票
※	廃棄していない	128票

◎捨てられがちな野菜

1位	きゅうり	20票
2位	もやし	17票
3位	キャベツ	9票
4位	きのこ	8票
4位	ニンジン	8票
4位	レタス	8票
4位	大根	8票
8位	トマト	7票
9位	じゃがいも	5票
10位	ピーマン	4票
10位	ブロッコリー	4票

今後も様々な活動を通して、生活者との直接のコミュニケーションを深めていくように活動して参ります。

イベント参加者の声(一部)

まだ食べられる食品を
たくさん捨てている
ことに驚いた。

最近野菜が高いのが
気になっていたの、実践して
節約に繋がりたいと思う。

日本は海外と比較して
物が豊富にあるので、
もったいないの意識が
希薄だと思う。

みんなの捨ててしまった
ものの例を見て、
気を付けたいと思った。

野菜の保存方法の工夫や
期限表示の違いなど
知らないことも多くなった。

食品メーカーや販売店も
食品ロス削減する
努力をして欲しい。

若い人は一日でも超過すると
捨てる傾向があると思うので、
特に知って欲しい。

災害時にも役立つ備蓄の
ことも説明があったので、
深く考えてみたいと思う。

国際的にも問題になっているので、
全世界の人に実践して欲しい。

イベント参加者の
食品ロスを
しないための
工夫

のこらず
食べる。

賞味期限の
表示をよく
確認する。

冷蔵庫を
こまめに
チェック!!

食品ロス削減
のために
できることを
実践しよう。

がんばって
なんでも
すきらいに
やってみよう。

正しい保存方法
を学ぶ。

ごみと
分別の
ルールを
よく確認する。

において
食べられるか
否か
わかるようにしたい。

自分で量を
調整し
残さない
ようにする!

3R漫画「地球にいいコト考えよう!」活用状況

3Rについて子供から大人まで広く普及させるため、主に会員の皆様にご協力をいただきながら、環境学習や工場見学、店舗イベントなどで配布・普及を行っています。

冊子では、容器包装リサイクルに関する課題や疑問などを漫画で分かりやすくお伝えするとともに、食品メーカー、百貨店、スーパー、飲食店、消費者団体など当連合会の幅広い企業・団体の3Rへの取り組み事例を紹介しています。

表紙



<配布の様子>



会員の皆様をはじめ多くの生活者、地域、企業が3Rに関心を持っていただけるよう、Webサイトでも冊子を公開しています。

「地球にいいコト考えよう!」Webサイト
URL <http://www.seidanren.jp/3r/>



『男の「ちょいカジ」マニュアル』を発行しました。

本年6月2日に「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定され、ダイバーシティの促進は企業の競争力強化にとって必須の条件となりつつあり、中でも大きな潜在力を持つ女性の活躍が、喫緊の課題となっています。しかしながらOECDの調査では、日本は男女の家事労働時間の差がワースト2位であり、『女性に差別とペナルティが存在する』と指摘されています。

こうした社会環境の変化と生活者の声を踏まえ、当連合会では“男性家事参加推進プロジェクト”として、「買エルマン」による行動喚起に続き、今回新たに、男の「ちょいカジ」マニュアルを始動致しました。

男の「ちょいカジ」マニュアルは、家事の知識が不足している男性をターゲットにした、家事参加のきっかけ作りを目指す小冊子です。

全国400人のアンケートによる「パパにやってほしい家事ベスト10」で、ママの気持ちを知る事からスタートし(25～39歳 専業主婦・兼業主婦の子供のいる家庭の妻と夫を調査)更に、“お願いに応えたい”、“力仕事に自信”、“スキマ時間”の3タイプのパパに合わせた身近な家事のコツを掲載しています。



表紙

中面



また様々な家事の事例に触れながら学びを深め、上記マニュアルをダウンロードして活用頂けるホームページ(<http://www.seidanren.jp/choikaji/>)を立ち上げました。

会員の皆様におかれましては、『男の「ちょいカジ」マニュアル』の配布及び周知を推進して頂きたい、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

リーフレット 「親子で考えよう、食品の期限表示」完成

食品廃棄対策委員会では、食品ロスの現状や消費期限と賞味期限の違い、期限表示の決め方について分かり易く解説したリーフレットを作成いたしました。またお子様にも楽しく学んでもらえるよう、シールを貼りながら理解を深める内容も盛り込みました。会員の皆様におかれましては、店頭設置をはじめ工場見学・食育活動等、生活者との接点の場において周知・啓発にご協力いただきますようお願いいたします。



第7回 アクティブライフ意見交換会 テーマ「買い物」

平成28年10月3日(月)



60～70代のシニア層に
様々な意見を伺いました。

- ・買い物で負担になっていることは？
- ・業態別の意識は？
- ・業態別の利用頻度は？
- ・業態別の使い分けは？
- ・SMの買い物行動について
- ・お買い物のサービスの可能性について

意見交換会の内容は、事務局から全会員様に向けて報告書をご送付し、情報共有を深めて参ります。シニアの方々の肉声を会員の皆様の活動・商品・サービスに活かして頂き、生活者のより良い暮らしに繋げて参りたいと思います。

定例勉強会

国際経済研究所と共催で定例勉強会を開催しています。毎回、講師の先生をお招きし様々なテーマでご講話を頂戴し、質問・疑問におこたえいただいています。ご興味がありましたら、是非ご参加ください。

	講師の先生方	テーマ
9月度	石破 茂 先生 (衆議院議員、前地方創生担当大臣)	『時局：混迷を極める世界の中の日本』
10月度	渡辺 喜美 先生 (参議院議員、日本維新の会副代表)	『アベノミクスは成功するか？ 第一次安倍内閣との戦略の違い』
11月度	山田 宏 先生 (参議院議員)	『安倍政権と 2017 年の政治、経済動向』

(講師の肩書は講演当時)



9月度



10月度



11月度

事務局からのお知らせ

《出向者紹介》



7月に(株)日清食品HDより出向して参りました佐原と申します。人口減少と超高齢社会対策の担当として、会員の皆様の知見・経験・実績を総動員し、具体的解決へのアクション立案と周知啓発の拡大に向けて、強い決意で臨んで参ります。これまでは営業という雑学を専攻して参りましたので、備えた応用力を活かしながら、会員の皆様とのコミュニケーションを大切に、一意専心、「国民の生活・生命を守るため」に一日でも早く御期待に沿えるよう、努力する所存です。今後ともご指導・ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い致します。

10月より(株)ゼンショー HDから出向して参りました平田と申します。2001年にゼンショー HDへ入社し、すき家の店舗勤務の後、これまでカフェやスーパーマーケットの営業、人事部総務部の業務、地方自治体への出向等を経験して参りました。生団連ではエネルギーと環境問題対策の担当として、これまでとはまた違う環境に不安もありますが、更に新しい経験ができることを前向きに捉え、尽力して参りますのでご指導の程何卒よろしくお願い致します。

《出向者紹介》





国民生活産業・消費者団体連合会

発行:国民生活産業・消費者団体連合会

発行日:2016年12月22日

本 部:

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-6-2 小津本館ビル7階

電話(03)3662-5240 / FAX(03)3662-5285 / E-mail: jimusho@seidanren.jp

虎ノ門事務所:

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル11階 日本チェーンストア協会内

電話(03)6268-8730

ホームページ:<http://www.seidanren.jp>